

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十一年二月度 入選句（投稿総数二千三百九十二句・小中学投句数千九百三十四句）

特選

かじかむ手言う事聞かないはんこうき 美濃加茂市 笹俣 美桜(中一)

冬の寒い時、若い人でも手がかじかんで動かなくなる。これを擬人化してほんとうに上手に句作した。
大人では手が動かなくなっても、せいぜい老化としか言えない。自分自身思いどおりにいかないもどかしさを反抗期と詠んだところが大変すばらしい。

積雪は大地がはおる大衣 美濃加茂市 上野 太雅(中一)

ほんとうに雪国では、積雪量が五メートルとか十メートルとかなる地方がある。日本全国、全体的に暖冬で大垣でも今年は一回しか雪が降っていない。しかも少量である。でも、東北とか北海道では、積雪量も多く、ほんとうに大地が雪をはおっている。しかも下五の大きな衣(ころも)をはおったと言ったところが大変すばらしい。

たけのこは何まい服をきているの 大垣市 清水 きなり(小三)

いよいよ、たけのこの季節になります。大きなたけのこでも皮をむいたら、二元の形の体積は半分以下になります。でも皮を一枚一枚はがすたびに春のにおいがします。又大なでゆでるときも、ほんとうに良いにおいがします。日本人なら大好きな食材です。作者は何枚服をきているのとたけのこを会話しながら、春のいぶきを感じている事でしょう。
素直な表現が秀作をつくりました。

秀逸

オリオン座オンリーワンの三連符 美濃加茂市 傍島 香穂(中一)

かるたとりこれぞとだけはとってやる 美濃加茂市 林 舞佳(中一)

今だけは夏が恋しい睦月かな 美濃加茂市 平山 華音(中二)

食べたのはホテルのおせちエビ一つ 大垣市 藤井 詩音(小四)

立春はお母さんのたん生日 大垣市 伊藤 吏玖(小四)

ぼくのかさ春一番とおどってる 大垣市 野村 煌希(小五)

空響く鳥の囀すみわたる 大垣市 近藤 秀介(小五)

ひなまつりにんぎょうよりもひなあられ 大垣市 大野 桃矢(小二)

豆まいて鬼も福も口の中 大垣市 藤原 唯良(小四)

入選

書初で思いを込めて抱負書く 美濃加茂市 太田 貴悠(中二)
 春高のバレーはいつもドラマ生む 美濃加茂市 垣内 康希(中二)
 年賀状ポストを開けるとどっさりと 美濃加茂市 藤吉 桃香(中二)
 名古屋までモデルのレッスン初電車 大垣市 藤井 詩音(小四)
 アルミ缶たくさんあつめてももの花 大垣市 ファンミン ニヤット(小四)
 チョコわたす平成最後のバレンタイン 大垣市 炭竈 玲亜(小四)
 昭和の日母がむかしをかたってる 大垣市 日比 理人(小三)
 桃の花さいたらわたしのたん生日 大垣市 大関 綾華(小三)
 春の月丸くてきいろおもちみたい 大垣市 田口 芽依(小三)
 春になりつぎの年号なんだろう 大垣市 安本 心(小五)

入選

よざくらはライトアップでたのしそう 大垣市 早野 莉央(小二)
 キヤベツのはちようちよのたまごいっぱいだ 大垣市 村若 拓真(小二)
 妹が春になったら一年生 大垣市 多湖 悠之介(小二)
 風船が手からはなれて旅に出る 大垣市 辻井 美葵(小四)
 マフラーを長くまいてペアルック 大垣市 高木 葉月(小四)
 息 白い私の体は雪女 大垣市 米山 あい(小六)
 さむい日のおでんグツグツおふろみたい 大垣市 田部 美琉(小二)
 若鮎が流れに乗っておよいでる 大垣市 柳瀬 陽海(小六)
 入学式希望ふくらむつめえりに 大垣市 矢橋 賢徳(小六)
 桜咲く始めに戻る物語 大垣市 菅 優伽(小六)

選者吟

鯉の目に残る寒さや兼六園